

2018年9月21日

6 大阪北部地震及び西日本豪雨での教訓について

(3) 消防のコストとリスク管理のバランスについて

○松本議員

次に、消防のコストとリスク管理のバランスについてですが、まず、地震発災後の消防団の活動状況について、また、その後の西日本豪雨での緊急援助隊としての出動について、詳細をお聞かせください。

（略）

○藤浦雅彦議長

消防長。

（明原消防長 登壇）

○明原消防長

消防のコストとリスク管理のバランスについてのご質問にお答えいたします。

大阪北部地震発生後の消防本部及び消防団の活動実績でございますが、消防本部におきましては、まずは施設の異常を確認するとともに、消防車両をガレージ前に出し、車両に異常がないことを確認した上、直ちに消防本部における警防本部を設置し、初動体制をとりました。

出動に関しましては、119番通報されてくる多数の情報を、その緊急度、重要度を指令センターで選別、トリアージし、各隊、各車両を出動させ、それぞれの事案に対応させたものでございました。

当日の地震関連の出動は、火災ゼロ件、救出6件、救急7件、その他の警戒出動7件、計20件でございました。

続いて、消防団の活動でございますが、消防団一斉メールにより、屯所の異常の確認と必要に応じた応急対策活動を指示しましたところ、14分団62名の消防団員が警戒活動を実施いたしました。

次に、西日本豪雨での緊急消防援助隊の活動につきましてお答えいたします。

7月6日、西日本の記録的大雨により、特に広島県、岡山県に甚大な被害が発生したため、各知事から要請を受けた消防庁長官の指示により、緊急消防援助隊大阪府大隊として、本市からは消火隊1隊、救急隊1隊を広島県へと派遣したものでございます。派遣期間及び人員数につきましては、7月7日から7月10日までの第1陣、7月9日から7月13日までの第2陣、合わせて16名を派遣いたしました。部隊は広島県安芸郡

に入りまして、救出、救助、救急の任務を遂行してまいりました。

(略)

○松本議員

次に、消防についてですが、消防もまた市民のために活躍されたと理解をいたしました。

さて、本市にて必ずしも活用されていない車両があると思います。そこには高額な車両も多く、特に2億円するはしご車は際立っています。財政が厳しい本市に本当に必要なのか、はしご車の購入の経緯、消防活動の実績について、そして、本市でのはしご車の必要性についてお聞かせください。

○藤浦雅彦議長

消防長。

○明原消防長

はしご車の購入経緯及び運用実績等についてお答えをいたします。

本市では、はしご車は、昭和47年に初めて配備をいたし、昭和63年の更新を経て、現在のはしご車は平成20年に更新整備した3台目でございます。

配備の基準といたしましては、国の基準であります消防力の整備指針、これに基づき、基準数1台に対し1台を配備いたしております。

はしご車につきましては、中高層建物での火災、また、救助事案で運用いたすものでございますが、低層の建物火災での高所からの放水、また、水難救助等にも活用する計画をいたしております。

現在のはしご車の出動実績は、平成20年の更新以降、計27件でございまして、決して大きな数字とはなっておりませんが、数字のみでは語ることのできない十分な活動実績を誇ると考えております。

はしご車は、市民の皆様の安全・安心を支える欠くことのできない主力消防車両でありますので、今後も適正なメンテナンスを行いながら、可能な限りの長寿命化を図り、運用してまいりたいと考えております。

以上でございます。

○藤浦雅彦議長

松本議員。

○松本暁彦議員

はしご車の必要性につきましては理解をいたしました。そこで、消防におけるコストとリスク管理とのバランスについてどうあるべきか、お考えをお聞かせください。

○藤浦雅彦議長
消防長。

○明原消防長

危機管理、リスク管理とは、危険を予測し、それに対策をしておくことと理解をいたしております。火災、救助、救急を中心とした消防分野におきましては、長い自治体消防の歴史の中で、経験、教訓を積み重ねながら、考えられる危険を予測し、ソフト・ハードの両面から必要な対策を行ってまいりました。本市におきましては、現在では、車両をはじめ必要最低限の消防資機材の整備が一定進みまして、ご質問にあります消防におけるコストとリスク管理のバランスは保っている状態であると認識をいたしております。

しかしながら、今後は、大規模自然災害、大規模特殊災害など、より一層危険予測のレベルを上げていく必要もあり、その対策を進めるに当たっては、必ずコストが伴うことも認識をいたしております。今回の教訓も踏まえ、限られた予算の中で市民の皆様生命、身体を守るため、知恵を絞り、工夫をいたし、適正にコスト管理を行いながら消防施策を進めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

○藤浦雅彦議長
松本議員。

○松本暁彦議員

リスク管理においては、最低限の質はしっかりと確保することと理解をいたしました。ぜひ本教訓をしっかりと消防行政に反映させ、公助における消防の役割を最大限発揮していただくことを要望いたします。